

(学校番号 247) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南中学校】

2022/4/28		
目標・策		
知識・技能	<目標>基礎的・基本的な知識及び技能を習得させること。令和4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」部分で、市平均を上回ること。	⇒
思考・判断・表現	<目標>令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」部分で、令和4年度の自校結果より3pt向上させること。令和4年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」部分で、市平均を上回ること。	⇒
主体的に学習に取り組む態度	<目標>令和4年度さいたま市学習状況調査の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で、肯定的な回答の割合を90%以上にすること。	⇒
	<策>定期テスト後に「やり直しテスト」を全教科で実施することにより、知識の定着を図る。スタディサプリやドリルパークを活用して生徒の学習段階に応じた課題を選択させ、見届ける。	
	<策>各教科の授業で、根拠をもって説明したり、データから理由をはっきりさせた説明を行ったりする場面を設定する。課題に対する根拠を説明する場面を設定する。教科の特性に応じて、学習課題や作品作りに取り組む際に、teamsやムーブメントの課題機能を活用して、級友の考えに触れて、自己の思考に対して検証を行う。	
	<策>各教科の授業で、学習目標・めあてを明示し、自己解決にあたる振り返りで、課題の解決に向け級友と話し合う時間を設定する。学級活動の協働的な学びの一助となる「話し合い活動」を最低でも毎月一回実施する。	

2022/9/2		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	<目標>令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、令和4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」部分で、市平均より3pt向上と修正する。	⇒
思考・判断・表現	<目標>令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、令和4年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」部分で、市平均より3pt向上と修正する。	⇒
主体的に学習に取り組む態度	<目標>令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、追加目標として令和5年度全国学力・学習状況調査において、全ての項目で無回答の割合を全国平均よりも低くする。	⇒
	<策の追加>今後、スタディサプリやドリルパークの活用を継続させながら、各教科で学習する内容を網羅的に考える指導をしていく。	
	<策の追加>今後、各教科の定期テストの「思考・判断・表現」に関わる問題を調査し、評価材料や評価方法について検証を行う。	
	<策の追加>今後、各教科での学習の成果を途中段階においてもきちんと評価し、積み上げていく指導を行う。また、「話し合い活動」を通じて生徒が自らの考えを表現する機会を授業や学校生活の中で多く設定し、学習意欲の向上を図るようにする。	

2022/8/30	
全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
令和4年度全国学力・学習状況調査の「知識・理解」において、全国(公立)の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、すべての教科で全国平均を上回った。一方、各教科で定着率の低い分野・単元が数ヶ所あることが明らかになった。特に、国語の行書の特徴を問う問題では、授業の中で意識づけが足りないため、知識として定着していない可能性が考えられた。	
令和4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国(公立)の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、すべての教科で全国平均を上回った。一方、各教科で文章で記述したり、説明したりする問題の無回答も散見された。特に、表現に関する問題についての無回答数は、問題文の指示が一部理解できず、解答できなかったのではないかと考えられた。	
令和4年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回った。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目においても肯定的な回答が多数を占めた。今後はより一層、「話し合い活動」を軸とした協働的な学びを充実させていけるよう授業改善に務めていく。	

2月24日	
さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	令和4年度さいたま市学習状況調査において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、すべての教科で全国平均を上回った。一方、国語の行書の基礎的な書き方、文語のきまりを問う問題に課題が見られ、全国学力・学習状況調査で出た課題と重なる点があったことから、言語文化に関する知識が定着していない可能性が考えられた。
中2	令和4年度さいたま市学習状況調査において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、すべての教科で全国平均を上回った。また、いずれの教科においても無回答率が市平均よりも低い数値であった。一方、理科の粒子とエネルギーを柱とする領域に関する問題に課題が見られ、特に、化学反応をモデルで表す設問、レンズを通る光の道筋の理解を問う問題では、設問の領域(単元)の中で知識が定着していない可能性が考えられた。
中3	令和4年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は95.3%、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目においても肯定的な回答が98.0%であり、市平均を上回った。「話し合い活動」の充実や生徒が主体的に学習に取り組んでいる様子が反映していると考えられた。

2月28日		評価(※)
成果指標に対する達成状況		
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、全教科平均で+4.4ptであり、市平均より3pt向上させるという目標を達成することができた。教科別では、国語+6.2pt、社会+3.8pt、数学+5.2pt、理科+2.5ptであった。いずれの教科においても市平均を上回った一方で、理科が目標値を下回った。	A
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、市の平均正答率と自校の平均正答率結果とを比較し、全教科平均で+4.2ptであり、市平均より3pt向上させるという目標を達成することができた。教科別では、国語+2.6pt、社会+3.4pt、数学+7.3pt、理科+4.9ptであった。いずれの教科においても市平均を上回った一方で、国語が目標値を下回った。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で、肯定的な回答の割合が90.8%であり、目標の学校平均90%を上回ることができた。一方、学年間で差が大きく、目標数値を下回る学年もあった。	A

3月10日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査において、すべての教科においても全国(公立)・市平均を上回り、基礎的・基本的な知識・技能の定着がみられた。スタディサプリやドリルパークなどの学習ツールの積極的な活用、「やり直しテスト」による知識の定着・見直しを継続させながら、各教科で学習する内容を網羅的に考える指導を展開していく。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査の結果から、知識面を問われた時に強みを発揮する生徒が多い一方で、「正解主義」の傾向が強いことは否定できず、分析結果を文章で記述したり、説明したりする問題には空欄で応じる生徒が多くみられた。今後は継続して「話し合い活動」やチャット機能を使った授業展開等を通じて、抵抗なく自分の考えを述べる場面を多く設定していく。並行して、教科会を中心に定期テストの「思考・判断・表現」に関わる問題の調査・検証を行う。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目における肯定的な回答の割合を90%以上を維持する。そして、より一層の「話し合い活動」を軸とした協働的な学びの充実、ICTを効果的に活用した授業改善を進め、個に応じた学習活動の展開と学習を自主させる授業実践のあり方を検証していく。

※評価

- A 8割以上(達成)
- B 6割以上(概ね達成)
- C 4割以上(あと一歩)
- D 4割未満(不十分)